

兵庫 県  
保険医協会

# 宮屋 西宮 支部ニュース

No.331  
2016・7・5

〒662-0832

発行 兵庫県保険医協会 西宮・芦屋支部  
西宮市甲風園一 五 法貴皮膚科内  
連絡先 兵庫県保険医協会  
電話〇七八(三九三)一八〇三

## 第33回漢方研究会

### 耳鼻咽喉科領域をテーマに講演

西宮・芦屋支部は4月23日、西宮神社会館で第33回漢方研究会を開催。「耳鼻咽喉科領域の漢方治療」をテーマに任智美先生(兵庫医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室講師)が耳鼻咽喉科領域について、北條和歌先生(尼崎中央病院耳鼻咽喉科)が咽喉科領域についてそれぞれ講演し、医師、薬剤師など102人が参加し学習した。司会を務めた岡村新一先生(西宮市・おかむらクリニック)からいただいた感想文を紹介する。

普段から漢方薬の処方や調剤に慣れておられる方が多かったと思いますが、私のように一般的な漢方薬の処方にも不慣れな方もおられたのではないのでしょうか。  
もちろん、耳鼻咽喉科だけでなく漢方薬全般の学術的なお話については、講師の先



任智美先生(左)と北條和歌先生(右)が講演した

今回は、耳鼻咽喉科医として病院勤務をしておられる2人の先生にご登壇いただき、耳鼻咽喉科領域の漢方薬について大変わかりやすく教えて頂きました。会場には



102人が参加し熱心に学習した

生方のお話しが大変参考となったことは言うまでもありませんが、ポリファーマシーや薬コンプライアンス、アドヒアランスといった、様々な問題を抱える高齢者医療を考える際にも、今回の講演はとても示唆に富んだ内容であったと感じました。  
これからの超高齢社会においては、急性期病院での積極的に治す医療(Cure)だけでなく、住み慣れた地域での治し支える医療(Care)の充実が求められています。通い慣れた病院や診療所への通院が困難となる患者には、定期的な訪問診療の提供が当たり前になされることが理想ですが、診療報酬の改定の度に大幅な修正が加えられている現状は、まだまだ課題が多いことを物語っているようにさえ思います。

多くの医療介護従事者が、最先端の医療と向き合う患者に寄り添いながら、その方に最も適したCareを考える際、漢方薬の知識や経験は新たな選択肢となり得る可能性があると思います。また、漢方薬に関する勉強会や研究会を通して顔の見える連携が生まれることは、今後の地域医療の発展に必ず寄与するものと思います。今後も、この会が多くの方々に支えられ継続されますことを祈念いたします。

【西宮市・おかむらクリニック 岡村 新一】

## 第5回ファイアサイドディスカッション 新薬の費用対効果を活発に議論

西宮・芦屋支部は4月23日、西宮神社会館で第5回ファイアサイドディスカッションを開催。「新薬と医療費」をテーマに伊賀幹二先生(西宮市・伊賀内科・循環器科)が講演し、医師など15人が参加した。司会を務めた林功先生(西宮市・林医院)からいただいた感想文を紹介する。

伊賀先生が講師をされている新薬と医療費のファイアサイドディスカッションに司会として参加



新薬の費用対効果について活発に議論した

させていただきました。新規口凝固薬(NOCA)を中心に、新薬の費用対効果について議論が行われまし

た。QALYs(質調整生存年・Quality Adjusted Life Years)と言われる指標を最近よく耳にします。QALYsは医薬品の価値(生命予後(生存年数)とQOLの改善)によって評価できると考える考え方です。つまり、新しい薬によって余命を何年延長できるのかあるいはどれだけQOLを改善することができるのか、ということになります。

また費用との相対評価においては、ICER(増分費用対効果: Incremental Cost Effectiveness Ratio)により費用対効果を評価する事が一般的とされています。ICERは「1単位の効果」(生存年、QALYs等々)を獲得するのに必要な費用と定義されています。医薬品の価値は、生命予後と費用対効果の指標により客観的に評価できます。しかし、実際の新薬の医薬費の決定に対しては様々な感情的な議論やマーケットの思惑など多くのバイアスがかかってきます。これらを実際の臨床医の立場で多くの方と議論することで、活発な会になりました。伊賀先生をはじめ、関係者の方に感謝申し上げます。

【西宮市・林医院 林 功】

## 世話人会だより

西宮・芦屋支部は6月23日(金)に西宮中央公民館で世話人会を開催。5人が参加した。

### 【報告】

職員接遇研修会(5・28)

### 【予定・企画】

東日本大震災被災地支援・地域交流 被災地物産展(6・25)

MediGal English #47(7・15)

第36回支部総会・記念講演(7・23)  
胸部X P 読影会(7・29)

### 【協会・保団連行事】

協会第48回総会(6・19)

第46回保団連夏季セミナー(7・2)7・3(東京)

第31回保団連医療研究フォーラム(10・9)10・10(京都)

### 【その他】

ストップ・ザ・アスベスト西宮から、アスベスト真相解明支援の依頼があり応じる。

\*世話人会の日程は毎月第4金曜日です。支部についてのご意見や企画案などをお寄せください。

リスクマネジメント研究会

医療事故調査の難しさを  
わかりやすく解説

西宮・芦屋支部は5月21日、協会会議室でリスクマネジメント研究会「医療機関におけるリスクマネジメント」医療事故調査制度・見落としがある理由」を開催し、医師など17人が参加した。講師に千葉県・亀田メディカルセンターの水沼直樹弁護士を、コメンテーターとして鶴岡万貴子弁護士を招き、医療事故調査制度の実施も踏まえた対策などを学習した。司会を務めた半田伸夫先生(西宮市・半田医院)からいただいた感想文を紹介する。

(1) 法律の世界は単純：注意義務違反による過失の有無と、発生した損害に対する因果関係を立証する。その際には医療水準に基づいてどうかを判断する。ガイドラインが参考となるが、医師の裁量で合理的な治療であれば大丈夫。しかしその根拠をカルテに記録する必要がある。応召義務違反は、来院の主目的が治療目的でなく、医師患者の信頼



水沼弁護士が医療事故発生の背景から対応までを解説

関係が破綻していて、緊急性が無く、代替医療機関がある場合や、自ら離院した場合などはまらない。報酬未払いや、時間外は応召義務があるので拒否できない。異常死体の届出義務は、体表を検査して異状がある場合に届ける。過失の有無は問わない。ただし体表に異常はない、とカルテに記載する必要がある。

(2) 医療事故調査制度：医療に起因した死亡、死産で、管理者が予期できなかったものを医療事故として調査する制度。内部調査と支援センターの調査がある。あくまでも今後の事故防止が主目的で、報告書は医療従事者が識別できないようにする必要があるので。亀田医療センターでは、死亡死産全例に、医療起因性、予期可能かどうかのチェックシート記載を義務付けている。

(3) 人はなぜ見落とすか 見えている世界が異なる：医者が貧血は問題ないと言った場合、血液検査での赤血球の減少を指すが、一般にはふらつくことをいうので、納得されない。合併症はおこりうる併発症と医療者は思うが、患者は医療者の不注意で起こる症状と考えるなど、常識感覚が異なることをまず理解する必要がある。

最後に水沼先生は、背景や衣装が途中で変わるカードマジックのビデオを紹介し、人がいかに見えているようで見ていないか、人の記憶がいかに曖昧であるかを説明し、事故調査の難しさについて言及された。きわめて分かりやすく、有意義な講演であった。

【西宮市・半田医院 半田 伸夫】



【ご略歴】1937年京都市生まれ。京都大学大学院医学研究科修了。医学博士。島根医科大学教授、京都大学大学院教授を経て、両大学名誉教授。WHOの協力を得て世界の60地域以上を30年かけて調査し、和食に多い大豆や魚介類を摂取する地域では、生活習慣病のリスクが少ないことなどを証明。またコーカサス地方の長寿村から持ち帰った「カスピ海ヨーグルト」についても健康効果を実証する。

西宮・芦屋支部 第36回総会記念市民公開講演会  
世界の食文化で分かった健康長寿の秘訣

「食はいのち」です。今日、上手に食べれば明日は元気に美しく輝いて暮らせます。

働き盛りの「メタボ」、ご高齢の方の「ロコモ」。若い人の痩せや隠れ肥満にならない上手な食べ方の秘訣が、30年をかけた世界の栄養研究で分かってきました。

美味しい食事を賢く食べ、適塩和食を楽しめば健康長寿も可能なのです。

多数のみなさまのご参加をお待ちしております。

講師 **家森 幸男** 先生  
NPO法人世界健康フロンティア研究会理事長  
武庫川女子大学国際健康開発研究所所長

とき **7月23日(土) 14時開場**  
14時30分開演、16時30分終了予定

\* 総会議事 14時～  
\* 講演終了後懇親会(要事前申し込み)

ところ **西宮市立勤労会館大ホール**  
西宮市松原町2-37(JR西宮駅南へ徒歩10分)  
TEL0798-34-1662

入場無料、どなたでもご参加いただけます。

お問い合わせは協会事務局(TEL 078-393-1809) 山田・岡林・納富まで

職員接遇研修会  
明日から実践できる接遇のポイントを学習

西宮・芦屋支部は5月28日、西宮市勤労会館で職員接遇研修会を開催し、会員医療機関のスタッフら11人が参加した。「接遇の基本とクレーム対応」をテーマに、大手前大学教授の水原道子先生が講演し、司会を安岡真奈美先生(西宮市・安岡クリニック)が務めた。ロールプレイも交えた実践的な研修で、参加者同士の交流も図られ好評を得た。参加者から寄せられたアンケートを紹介する。

・「ファン作り」という発想がなかったのが目からウロコでした。「優しさ」が接遇の基本ということもなるほど、素敵だなと嬉しくなりました。(受付事務)

・何よりも患者との信頼関係ができてよかったです。気をつけながら、気を配りながら対応したいと思えます。(事務)

いざという時のために勉強できたので心強いです。また、クレームは起こってからはなく、起こらないようにするということがとても心に残りました。(受付) 他のクリニックの方ともお話しできて、料の違いでも対応がちがうのだと気が付きました。(受付)

とてもためになりました。医院のスタッフに徹底するのは難しく、どのようにスタッフを指導して導いていくのがいいのか、その方法もあると良いと思います。(事務)

とても勉強になりました。仕事だけでなく、普段の対人関係にも役立つことばかりでした、ありがとうございました。(事務)



講師を囲み、交流しながら学習した